

留学生センター活動報告書（平成 23 年度）

I. 各部門報告

日本語教育部門

留学生センターでは、学内のすべての外国人留学生（学部生・大学院生・研究生・短期留学生）を対象として、それぞれのニーズに対応した多様な日本語コースを提供している。以下、日本語教育関連プロジェクトと主たる日本語教育コースについて報告する。

今年度は、震災により留学生の足並がそろわぬまま始まったコースやクラスもあったが、遅れて来日、また、一時帰国から戻った留学生が不利を被らぬよう、個別対応を実施した。節電対応については、学生へも協力を呼び掛けるなど、現状への理解に協力を得た。

1. 日本語教育関連プロジェクト

▼海外協定校との高レベルプログラム関連の共同プロジェクト

2010 年度より本学の重点的協定校である華東師範大学との共同で高レベルの学生に照準を当てた初級教科書を開発中である。2010 年度 3 月のショートプログラム試行を、今年度 10 月のショースタイププログラムの実施につなげた。また、9 月には華東師範大学での日本語教育カリキュラム開発シンポジウムに、2 名が講師として参加した。さらに 10 月から 12 月にかけて、華東師範大学徐敏民教授を客員研究員に迎え、教科書編集を精力的に行った。

▼日本語特別コースの実施

学期中の 6 月と 11 月に日本語能力試験直前対策クラスを開講した。

7 月にはマレーシア政府派遣国費理工学部留学生のために、チューターを利用した数学・物理の特別補講を実施した。

▼日本語教育プログラム改革

2011 年度より、研究生の日本語履修が正規生と同様の全学の web 登録システムに組み込まれるようになり、研究生の全学講習日本語受講のため web 登録が可能となり、修了証がセンター長名で発行されることとなった。

▼研究会・講習会の開催

7 月に一橋大学センター国際教育センターの太田浩教授を講師として招き、センター研究会を開催した。

▼学内行事の企画

- ・ ホームカミングデーにおいて留学生センター主催で「YNU スピーチ大会 2011」を開催し、本学OB、市民ボランティア、近隣の一般市民にも横浜国立大学の留学生の存在、彼らの思いを発信し、大学の留学生教育への理解や国際交流の促進に貢献した。また、外部（読売新聞）の賞を含めた賞を準備し、留学生の留学への意欲、日本語への意欲をさらに喚起した。また華東師範大学のSSの成果発表も同時に行った。
 - ・ 学内の他学部のSSプログラムで来日する学生のニーズに応じて、学期途中の日本語コースにおいて、柔軟に受け入れた。
- ・ 2月3日には国立台湾大学との大学間交流協定（提案部局：留学生センター）の締結を記念し、横浜国立大学・国立台湾大学共同国際シンポジウム「日台連携の可能性を求めて」を開催する。講演者には、台湾大学前国際学術交流中心主任である沈冬などが予定されている。（別紙資料）

▼ SS&SV プログラムへの参加

・ 3月に華東師範大学からの学生を招いてSSを試行した。また、3月の試行を踏まえ、SS採用プログラム「日本語・日本学の教育研究交流による長期留学生育成のための協働プログラム」を実施し、華東師範大学から日本語学部の学生5名を受け入れ、その成果を留学生センター主催の「YNU 日本語スピーチ大会 2011」で発表した。

さらに、SS&SV 採用プログラム「双方向的日台学術交流・友好強化プログラム」の一環として1月29日～2月7日までの10日間、台湾大学・政治大学・清華大学からの院生6名を受け入れるほか、1月4日～8日は日本人学生4名を引率し、台湾大学・政治大学・清華大学を訪問、調査・交流を行い、日本人学生の国際派遣に貢献した。

▼ 新規日本語教育プログラムの立ち上げ

教育人間科学部との協力の下、韓国世宗大学日本語学科の学生30名を1年間有料で受け入れる、新たな留学プログラムの立ち上げを準備中である。

2. 日本語教育コース

▼全学講習日本語コース／JOY 日本語プログラム

「全学講習日本語コース」は、本学に在籍するすべての留学生に対して開かれている日本語コースで、単位の認定は行わず、希望者に修了証を発行している。「JOY 日本語プログラム」は、短期交換留学プログラムの学生を対象とする単位認定を行うプログラムで、全学講習日本語コースとの同時開講を行うことで、コースの選択肢を広げ学習者のニーズに答えている。全学日本語コースについては、単位認定を行わないというコースの性質から、受講者の受講履歴や受講者数の把握が課題となっていたが、学務部の協力得て、2011年度より、研究生対象のweb登録、受講証明書の発行などの体制が整備された。特に前期は震災の影響で来日が遅れるなどの混乱が生じたため、学務部の配慮で登録期間を延長するな

ど便宜をえた。これにより、履修記録が残り、また、単位が認定されない研究生やエクストラに履修した院生も条件を満たしていれば、証明書が自動的に発行されるなどのサービスが受けられるようになった。

▼日韓共同理工系学部留学生事業（日韓プログラム）

2011年度10月には第2次事業2期生6名の日韓生を受け入れ、半年間の予備教育を担当した。日本語クラスは、4技能を全体的に養成するクラスを6コマ、漢字クラス2コマの計8コマを必修にし、必要に応じて、その他の日本語クラスも履修させた。さらに専門科目クラスでは、工学府の大学院生チューターの指導により、東京圏6大学で共同実施している数学、物理、化学、英語、生物（選択）の問題演習を行うほか、大学での理系科目講義に慣れるために、理工学部

教員の指定する学部理系科目講義を2コマ聴講し、その予習・復習を個人チューターとともに

に行うよう指導した。そのほか、発信力を重視し、理系のためのプレゼンテーション技術(日本語・

英語)の授業を計5回(10コマ分)行った他、2回にわたり、関東圏5大学合同の講演会および

プレゼンテーション発表会を行った。

そのほか、日韓生獲得をめぐる競争の激化、兵役休学の導入、といった昨今の状況に対応し、日韓生のための理工学部への接続教育を意図した教養科目の新設も、理工学部の協力のもとに検討されている。

▼日本語研修コース

日本語研修コースは、大学院に進学を希望する国費研究留学生、および教員研修留学生のためのコースであり、未習者に対しては週8コマ、既習者に対しては週6コマの集中日本語クラスを用意している他、全学講習日本語コースの関連クラスの受講も薦めている。

▼学部教養教育：外国人留学生のための授業科目（日本語・日本事情）および国際理解科目

毎年「日本語中級」6コマ、「日本語上級」7コマ、「日本語演習」3コマ、「日本事情」3～4コマが開講され、年間延べ約300人の学生が受講している。新規科目として、2010年度より、留学生の就職活動支援を念頭においた「ビジネス・ジャパニーズ」を日本語上級Hにおいて開講し、2011年度は、「日本企業と留学生」を日本事情Eとして開講した。留学生センターでは、外国人留学生と日本人学生が履修する主題別「国際理解」科目を開講しているが、本年度は、新規科目、国際理解12「日本語をめぐる国際交流史」国際理解13「核の現代史入門」を含む9科目を開講した。

▼英語による特別プログラムの日本語科目

大学院国際社会科学研究所の英語による特別プログラム（公共政策・租税博士課程前期プログラム、インフラストラクチャー管理学プログラム）の日本語クラスを開講した。

短期留学部門

短期留学コーディネーター（以下、コーディネーター）は、短期留学（派遣・受入れ）専門委員会と連携し、交換留学が活性化している海外協定大学約 60 校と連絡調整を行ない、留学生派遣及び受入れ、英語による国際交流科目の運営に関わる諸業務を担当している。

1. 短期留学生派遣事業

派遣留学生数

21 年度	22 年度	23 年度
24 名	38 名	31 名

コーディネーター 2 名が、学務部教務課留学交流・センター係とチームを組み、協定校との交渉、留学説明会、留学セミナー、留学ガイダンス、多言語トークタイム、国際交流科目、サマースクール、TOEFL 対策講座、短期留学生派遣同窓会等の活動を通して派遣留学を推進している。

2. 短期留学生受入れ事業

受入れ学生数

21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
51 人	55 名	28 人	20 名(4 月のみ)

国際交流科目の統括の他、受入れ留学生の生活就学上の指導を行っている。

3. 2011 年度の主な事業

短期留学（派遣・受入れ）に関わる教育・運営上のルーチン業務の他に実施した主な業務（新事業を含む）は次の通りである。

新規協定校開拓

グラナダ大学、マラヤ大学（H23. 2）

マラヤ大学からは平成 23 年度に 2 名の交換留学生を受入れた。

サマースクールの実施

韓国の4大学（淑明女子大学、ソウル市立大学、釜慶大学、嶺南大学）の5プログラム、シドニー工科大学のサマープログラムに学生27名を派遣した。

ボランティア団体との連携

三井ボランティアネットワークによる一対一の交流制度を総括する他、横浜国立大学市民ボランティアと連携し「クールジャパン」（日本文化紹介科目）及び日本語11科目を実施した。

多言語トークタイム

ランチタイムに受入れ留学生が母語を教える活動。本年度の使用言語は、英語、ドイツ語、フランス語、韓国語、マレーシア語、中国語だった。

クールジャパン

横浜国立大学市民ボランティア、本学教員のボランティアの協力で、茶道、居合道、書道、ポップカルチャーを体験できる授業を受入れ交換留学生を対象に開講した。

シャトルベース事業英語プログラムへの協力

英語プログラム、ミニワーキンググループのメンバーとして、英語プログラム及び英語による副専攻コースの準備に参加した。

生活指導部門

2011年度に生活指導部門が行った主な業務および取組みは以下のとおりである。

1. 留学生センター所属留学生の指導

▼日本語研修生（大使館推薦国費留学生）の受入および生活指導（毎学期）

前期8名（うち3名他大学進学）、後期2名

2. 外国人留学生に関わる相談業務

週10件から30件。主な相談内容は、住宅関係（家探し、大家とのトラブル、寮トラブル）、金銭トラブル、健康、交流、日本語、経済、奨学金、DV、手続き補助等。年間を通してみると、新学期（4月と10月）に相談件数が多く、ここ数年の年間総数は650件から800件である。

3. 外国人留学生に対する支援業務

外国人留学生が日本での生活をできるだけ順調に運べるよう、以下のような支援に取り組んだ。

▼交流・相談室（105室）」の運営

留学生のニーズ（日本語会話の相手、手続きの手伝い、情報提供、交流等）に気軽に感じられるように留学生センター1階に設けたもので、学生スタッフが対応する。生活指導部門の教員は、学生スタッフの指導育成、イベント開催のサポートを行う。年間を通じて行われる主なイベントは以下のとおりである。新入留学生対象のキャンパスツアー（4月、10月）、ウェルカムパーティ（4月、10月）おにぎりパーティ（5月）、BBQパーティ（7月ないし8月）、オープンキャンパスへの参加（2009から）、秋のイベント（11月頃）、留学生と日本人学生との交流合宿（11月）、年始年末パーティ（12月ないし1月）。なお、学生スタッフは国際課から依頼を受け、見学旅行などにチューターとして参加しているほか、海外から本学を訪問する学生との交流への要請にも応じている。

▼広報活動：配付冊子等の作成

留学生への情報提供および、日本人学生と留学生との交流の促進を目的に以下の印刷物を作成・改訂し、配布するとともに、ウェブサイトへの掲載を行っている。

- ・留学生との交流ハンドブック（2012年に向け改訂予定）
- ・留学生のための学内窓口案内（每学期改訂）
- ・学内外の交流イベントリスト

▼外国人留学生支援方策検討専門小委員会における委員長および事務局の業務

- ・委員会の開催（年9回）
- ・委員会企画等の実施：以下のことがらを実施した。

教員のための留学生指導に関する10の情報改訂版配付（2011）、「留学生ネット」の立ち上げと運用（2008から）、各国・各地域の留学生会との懇談会（2011）、地震対策カード改訂（2011）、生協でのハラルメニュー提供への働きかけ→第2食堂で実現（2011）

このほか、当委員会では次のようなことを実施してきた。住宅を借りる際の注意事項カード作成（2009）、生協のメニューの英語併記提案（2009）

▼就職活動支援

留学生の就活支援団体（NAP）との連携による就活セミナー開催をサポートした（2009から毎年数回実施）。また「日本企業と留学生」と題する就活支援授業を教養教育科目（「日本事情E」）として実施（2011）を行った。

日本企業（日系企業）に就職している卒業留学生に対するインタビュー調査（就活経験、会社での経験について）

▼地域団体との連携による留学生支援プログラム等の実施

- ・地域ボランティア団体（KSGG）との連携による個別日本語支援（常時30数名）およびイベント開催（年数回）への協力
- ・ホームステイ体験プログラム実施（年3回実施：毎年約50組）
- ・留学生会館 地域ボランティアによる日本語教室（週2回）開催の支援
- ・和田町住民との交流（2008～2010）、地域交流科目（「留学生の居場所づくり」）の実施

(2008)

- ・ 左近山団地住民と留学生との交流の支援 (2011年より)

▼他大学との連携

- ・ 全国国立大学留学生指導研究協議会への参加
- ・ 同協議会代表幹事 (2008年度～現在) を担当

▼ その他の指導業務

新入留学生オリエンテーション (4月、10月)、一時貸付け面接、社員寮面接およびトラブルへの対応。高水準プログラム院生に対する日本語教育コーディネーション、留学生の住宅問題への対応。

4. 横浜国立大学留学生会館 主事

主事の業務として以下の事柄を行った。

- ・ トラブル等への対応
- ・ レジデントアシスタント (日本人学生) の選出と指導
- ・ ロータリークラブとの交流

5. 卒業留学生との交流

- ・ 本学ホームカミングデー開催への協力 (2011) 実行副委員長
- ・ 卒業留学生情報収集への協力

Ⅱ. 個人報告

(1) 研究業績 (主たる業績 10 点まで)

1. 著書

2. 論文

3. 科研費実績

4. 学会発表・他

(2) 社会活動 (主な活動 3 点まで)

(3) 学内活動

日本語教育部門 (4 名)

小川誉子美 (教授・日本語教育部門)

(1) 研究業績 (主たる業績 10 点まで)

2. 論文

- ・黎明期日本語講座の目的—ヨーロッパ・中東における事例から—

“Cairo Symposium on Japan Studies 2010” (頁 20-28) 2011

- ・日本語講師北山淳友の事績—戦間期の対独時代を中心に—

『日本学刊』14号 香港日本語教育研究会 (頁 4-15) 2011

- ・日本語教育史のテキスト作成に向けた基礎的考察 『日語教学研究』

(頁 214-226) 2011

3. 科研費実績

- ・基盤研究 (C) 平成 21 年度～平成 23 年度、課題番号 2152053 【研究代表者】

研究課題名：日本語教育史テキスト作成に向けた基礎的研究

4. 学会発表・その他

- ・ヨーロッパにおける戦前の日本語講座—ブルガリアの事例と背景— 第 24 回日本語教育連絡会議 於：ブルガリアソフィア大学 2011/8
- ・日本語教科書と文法教育他 2011 年日本語教育カリキュラム改革及び教材開発研究会、於華東師範大学、(中国、招待講演) 2011/9

(2) 社会活動 (主な活動 3 点まで)

- ・科学研究費委員会専門委員、日本学術振興会、2011/06 ～ 2011/10、
- ・日本語教育学会大会委員 ～2011/6
- ・日本語教育学会研究集会委員 2011/7～

(3) 学内活動

- ・FD部会委員
- ・公開講座委員会委員
- ・「YNU日本語スピーチ大会2011」実行委員（センター内）

奥野由紀子（准教授・日本語教育部門）

（1）研究業績（主たる業績10点まで）

1. 著書

- ①「非母語話者のコミュニケーション上の問題点」『日本語教育のためのコミュニケーション研究』野田尚志（編）くろしお出版、2012年出版決定

2. 論文

- ①「「きく」プロフィシエンシーを高める授業思案-「きく」過程を強化する練習方法を中心に-」奥野由紀子『日語教学研究』華東師範大学出版社 pp.49-56. 2011.（招待講演論文）
- ②「漢字圏学習者の「の」の脱落における言語転移の様相 —「の」「으」「的」の対応関係に着目して—」奥野由紀子・金玄珠『国立国語研究所論集』第2号. pp77-89. 2011. 国語国立研究所（査読あり）
- ③「中級停滞者の縦断的発話の分析—動詞語彙・単文・複文に着目して—」山森理恵・金庭久美子・奥野由紀子『留学生センター教育研究論集』第19号 2012.年（査読あり・掲載予定）

3. 科研費実績

- ①基盤研究(C)「言語転移の双方向的検討」（研究代表者 奥野由紀子）
平成21年度～平成23年度
- ②基盤研究(A)「コミュニケーションのための日本語ウェブ教材の作成と試用」（研究代表者 小林ミナ）（連携協力者 奥野由紀子）平成21年度～25年度

4. 学会発表・他

- ①学会発表（共同発表）：「新しい日本語教材開発のための中日協同プロジェクトがもたらすもの—[Can-do Statement—]を用いた教材開発」徐世界日語教育研究大会（ICJLE2011）2011年8月21日天津外国語大学（中国）
- ②学会発表（共同パネル発表）：「中級停滞者は本当に伸びていないのか—会話における縦断的発達に着目して—」世界日語教育研究大会（ICJLE2011）2011年8月21日天津外国語大学（中国）

（2）社会活動（主な活動3点まで）

- ①国立国語研究所共同研究者
- ②『第二言語としての日本語習得研究』査読委員
- ③中国語話者のための日本語教育研究会（日本語教育学会テーマ研究会）幹事

(3) 学内活動

- ①男女参画推進室委員
- ②日本語研修コース日本語コーディネーター
- ③YNU 日本語スピーチ大会運営委員
- ④留学生センター公開講座「日本語で国際交流」講師

丸山千歌 (准教授・日本語教育部門)

(1) 研究業績 (主たる業績 10 点まで)

1. 論文

- ・「ある若手日本語教師の海外派遣前後の意識の変容」小澤伊久美・丸山千歌『ICU 日本語教育研究』7号、(査読有) 国際基督教大学日本語教育研究センター、34-53、(2011)
- ・「日本語教科書に見られるステレオタイプを日本語教師はどうとらえたか-多様な日本語学習者への実践経験を持つ日本語教師へのパイロットスタディ-」丸山千歌・小澤伊久美『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』18号、33-52、(2011)
- ・「ステレオタイプの読解教材に学習者の留学経験はいかに反応するか-日本語学習者に対する PAC 分析法による縦断的研究からの示唆-」『日本語教育研究論集』、中国華東師範大学出版社、203-213、(2011)

2. 科研費実績

- ・『2011 年度～2013 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 留学経験から発想する日本語授業の新たな意義-PAC分析を活用した縦断的研究-(課題番号 23520617)』(研究代表者)

3. その他 (学会発表含む)

- ・「同じ読解教材を刺激としたことがいかに連想に現れたか-留学生 F に対する縦断的 PAC 分析調査から-」PAC 分析学会第 5 回大会、於国際基督教大学、2011.12.17 (小澤伊久美との共同による口頭発表)
- ・「PAC 分析の刺激について考える」PAC 分析学会第 5 回大会、於国際基督教大学、2011.12.17 (小澤伊久美との共同による大会企画)
- ・「日本人の親を持つ日本語学習者 X にみられる日本留学経験と読解教材との相互作用-PAC 分析による縦断研究から-」日本質的心理学会第 8 回大会、於安田女子大学、2011.11.26 (小澤伊久美との共同によるポスター発表)
- ・「『新界標日本語』の特徴-中国におけるグローバルな日本語教科書の開発-」2011 年日本語教育カリキュラム改革及び教材開発研究会、於華東師範大学、2011.9.24、(中国、招待講演)
- ・「新しい日本語教材開発のための中日協働プロジェクトがもたらすもの-「Can-do Statements」を用いた教材開発-」、世界日本語教育大会 2011、於天津外国語大学、

2011.8.21 (徐敏民、喬穎、彭瑾、奥野由紀子、四方田千恵、小川誉子美との中日共同ワークショップ)

- ・「日本語学習者が読解教材から連想するイメージ-PAC 分析法を活用した留学前・中・後の縦断研究から一」第32回異文化間教育学会、於お茶の水女子大学、2011.6.11 (小澤伊久美との共同発表)

②社会活動 (主なもの3点まで。期間を書く)

- ・ 社団法人日本語教育学会 研究集会委員 (〜平成23年7月)
- ・ 社団法人日本語教育学会 評議員 (平成23年6月〜現在)

③学内活動

- ・ 全学教育部会委員 (2010年度〜現在)
- ・ 留学生センター教務委員 (2010年度〜現在)
- ・ JOY 日本語・全学講習日本語コースコーディネーター (2011年度)
- ・ 留学生センター公開講座「日本語で国際交流」2011.6.4 および 6.18 実施

四方田 (垂水) 千恵 (教授・日本語教育部門)

(1) 研究業績

1. 論文

- ①垂水千恵「邱妙津作品における「鰐」という表象の源泉をめぐって—台湾現代文学における日本文学の「引用」」『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』19号、2012年3月掲載予定
- ②垂水千恵「1930年代日本文学における「野蛮」への共鳴をめぐって—大鹿卓『野蛮人』・谷崎潤一郎『武州公秘話』・山部歌津子『蕃人ライサ』を中心に—」『日本研究』15 (高麗大学校) 2011年2月、pp. 65-99

2. 科研費実績

- ①平成23年度〜平成25年度基盤研究 (C) 「台湾現代文学におけるセクシュアリティおよび日本表象のポリティクス」(研究代表) 四方田千恵 (垂水千恵)

3. その他学会発表 (招待)

- ①学会発表 (招待) 垂水千恵「日本文学中的少数民族之飲食文化象徴 —以開高健的《日本三文歌劇》、小松左京的《日本阿帕契族》、梁石日《賭夜》為討論中心」台湾中央大学主催；「原住民飲食文學與文化國際學術研討會」2011年5月27日、28日於台湾師範大學
- ②学会発表 (招待) 垂水千恵「台湾という身体の「再現」—真杉静枝を書くということ—」中央研究院人文社会科学研究センター亜太地域研究專題中心主催；『日本文学中的台湾』国際學術研討会」2011年10月7日
- ③学会発表 (招待) 垂水千恵「日本人作家の見た「外地」台湾—中西伊之助、沖野岩三郎を中心に—」国際日本文化研究センター主催；シンポジウム「「外地」文学の言説的ネットワーク：台湾と満洲の対話」2012年1月21日

④学会発表（招待）垂水千恵「戦後の創作活動から見る、台湾人作家にとっての「日本語」文学－邱永漢、黄靈芝を例として－」国際日本文化研究センター主催；シンポジウム「日本語で書く－非母語文学の成立」2012年1月27日、28日

⑤翻訳：「叶 弥「もう一つの世界で（日韓中・三文芸誌による小説競作プロジェクト 文學アジア 3×2×4(第3回)「旅」篇）」『新潮』108(6) [2011.6]、pp. 126～139

(2) 社会活動

- ・ 日本台湾学会第7期常任理事（総務担当）（2011.6～）
- ・ 清華大学日本研究センター特別講習セミナー講師（2011. 9.9－11）

(3) 学内活動

- ・ 国際教育シャトルベース事業 YNU 英語プログラム WG 委員

短期留学部門（2名）

長谷川健治（准教授・短期留学部門）

(1) 研究業績（主たる業績10点まで）

1. 著書

Peter Duus and Kenji Hasegawa eds., *Rediscovering America: Japanese Perspectives on the American Century* (University of California Press, 2011)

2. 論文

Kenji Hasegawa, “Anti-American Nationalism and Leftist Factionalism in 1950 and 1960 Japan” 『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』18号、2011年

Kenji Hasegawa and Tom de Laar, “The German and Japanese Red Armies in Film and History” 『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』19号、2012年3月掲載予定

3. 科研費実績

4. 学会発表・他

(2) 社会活動（主な活動3点まで）

- ・ NPO法人さなぎ達と連携して実習科目「ホームレスネス」開講
- ・ 常盤台小学校と連携して実習科目「小学校ESL1&2」開講
- ・ JICAジェネラルオリエンテーション講師

(3) 学内活動

- ・ 短期留学専門委員会
- ・ IMP運営委員会
- ・ 留学生センター教育研究論集委員

吉田昌平（教授・短期留学部門）

(1) 研究業績 (主たる業績 10 点まで)

1. 著書

ハナーン・ラフィーク、吉田昌平『アラビア語の音声』(仮題) 東京外国語大学、2012 年出版決定

2. 論文

3. 科研費実績

4. 学会発表・他

(2) 社会活動 (主な活動 3 点まで)

- 都筑多文化・青少年交流プラザ運営法人選定委員会委員長
- 横浜市青葉国際交流ラウンジ日本語ボランティア養成講座講師
- 放送大学面接授業講師 (2 科目)

(3) 学内活動

- 教員代表
- シャトルベースタスクグループ
- シャトルベース英語プログラムワーキンググループ
- 短期留学専門委員会
- 英文広報資料作成専門委員会
- 危機管理広報委員会

生活指導部門 (2 名)

門倉正美 (教授・生活指導部門)

(1) 研究業績 (主たる業績 10 点まで)

1. 著書:

・『新・日本留学試験実戦問題集 読解』門倉正美 (編著)、佐々木瑞枝 (監修)、ジャパンタイムズ、2011 年 12 月

・『新書探検』二通信子・門倉正美・佐藤広子、東京大学出版会、2012 年 4 月刊行予定

2. 論文

・『コミュニケーションをく見る』一言語教育におけるビューイングと視読解、『早稲田日本語教育学』第 8 号、第 9 号合冊号、115-120、(2011)

3. 科研費実績

・『2009 年度～2011 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 日本語教育へのビューイング教育の導入 (課題番号 2152053210)』(研究代表者)

・『2011 年度～2014 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 実践的な読解教育実現のための日本語学習者の読解困難点・読解技術の実証的研究 (課題番号 23201070)』(研究分担者)

4. 学会発表・他

①学会発表

- ・第10回日本語教育世界大会（於：天津外国語大学、2011年8月）における「各国代表パネルディスカッション」：日本における初級教科書の日本文化理解―登場人物、場面、視点から見る、門倉正美（日本語教育学会副会長）、予稿集第1巻16ページ
- ・第10回日本語教育世界大会（於：天津外国語大学、2011年8月）におけるワークショップのコーディネータ：東日本大震災後の日本語教育を考える、予稿集第1巻82-83
- ・4学会連携公開シンポジウム「多文化社会を担う人づくり」における日本語教育学会代表としての報告：学会の社会貢献と連携への期待、門倉正美（日本語教育学会副会長）、2011年11月23日、於：明治大学

②社会活動（主なもの3点まで。期間を書く）

- ・社団法人日本語教育学会 副会長（2009年6月～現在）
- ・国立大学留学生指導研究協議会 代表理事（2008年4月～現在）
- ・アカデミック・ジャパニーズ・グループ 代表幹事（2004年4月～現在）

③学内活動

- ・外国人留学生支援専門小委員会 委員長（2003年度～現在）
- ・国際戦略推進室運営委員会オブザーバー（2011年度）
- ・実践的国際交流委員会（2009年度～現在）

藤井桂子（教授・生活指導部門）

（1）研究業績（主たる業績10点まで）

1. 著書

2. 論文

- ・藤井桂子「留学生との交流が日本人学生に与える影響（2）-国際交流グループに所属する日本人学生の変容に関する事例分析-」『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』19号、2012年3月掲載予定

3. 科研費実績

4. 学会発表・他

（2）社会活動（主な活動3点まで）

（3）学内活動

- ・留学生会館 主事（2011-2012）
- ・外国人留学生支援方策検討専門小委員会 事務局（2003～現在）
- ・施設部会 構成員（2010-2011）
- ・一時貸付け審査委員会委員（～現在）